

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察 特殊報 第1号

- 1 病害虫名 : ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg)
- 2 発生地域 : 大阪府泉州地域
- 3 寄作物 : サツマイモ (かんしょ)
- 4 発生の状況
 - (1) 令和2年8月6日、泉州地域のサツマイモ栽培ほ場において、葉を食害する大型のハムシ類成虫が確認された(図1)。
 - (2) このハムシ類について、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、ヨツモンカメノコハムシと同定された。
 - (3) 大阪府内では本種の農作物での発生確認は初めてである。
 - (4) 本種は国内では沖縄本島以南、海外ではインド、中国南部、台湾、ミャンマー等のアジアの熱帯～亜熱帯に分布していたが、近年、国内での分布域を北に広げており、平成11年に長崎県で確認されて以降、平成14年に鹿児島県、平成20年に宮崎県、平成21年に静岡県、平成24年に東京都(大島、三宅島)、平成27年に愛媛県、平成28年に山口県、大分県、高知県、平成29年に神奈川県、令和元年に和歌山県、三重県から病害虫発生予察特殊報が発表されている。
- 5 形態
 - (1) 成虫は扁平な円形で、体長7.5～9mmと大型である。体の中央部はやや艶のある茶褐色、周縁部は半透明で黄褐色を呈す。鞘翅の前方と後方の縁に黒褐色の大型斑紋がある(図1)。
 - (2) 幼虫は扁平な紡錘形で、周囲体側にトゲ(樹枝)状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う。
 - (3) 成虫出現期は4～11月。長崎県では成虫態で越冬して5月頃から産卵を開始し、ふ化した幼虫は7月以降に蛹化～羽化すると推定されている。
 - (4) 本種はサツマイモを始め、ノアサガオ、アサガオ、ヒルガオ等のヒルガオ科植物を食草とする。
- 6 被害
成虫、幼虫とも植物の葉を食害する。直径数mm～10mmほどの円形～不定形の穴を点々と開ける(図2)。卵から成虫まで葉上で生活し、土中には生息しないためサツマイモのイモは食害しない。
- 7 防除方法
 - (1) ほ場をよく見回り本虫の早期発見に努める。
 - (2) ほ場周辺のヒルガオ科の雑草は本種の発生源となる可能性があるため除去する。
 - (3) 発生が多い場合は、次表を参考に農薬登録情報を確認して薬剤防除を行う。

「かんしょ」の本虫に適用のある農薬（令和2年8月現在）

薬剤名	系統（IRAC）	希釈倍数	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スミチオン乳剤	有機リン系（1 B）	1000倍	収穫7日前まで	散布	5回以内
コテツフロアブル	ピロール系（1 3）	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	2回以内
アクセルフロアブル	メタフルミゾン（2 2 B）	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内
ベネビアOD	ジアミド系（2 8）	4000倍	収穫7日前まで	散布	3回以内



図1 ヨツモンカメノコハムシ成虫



図2 被害葉（サツマイモ）